



『ぼくを燃やす炎』

サウザンブックス、二六〇〇円＋税

マイク・ライトウッド著 村岡直子訳

「オスカル」

本書はスペインの小説。オスカルという一六歳の高校生が主人公の「青春」小説だ。この書評欄が小説を取り上げるのは珍しかろう。しかし、LGBTプラスに関連した書物をもっと読みたいとき、小説という形式が最適だと確信した。個人の内面と周りの人間関係、家族、学校と友人恋愛と暴力。これらのことを十全に示すためには小説を必要とした。五〇〇ページもの物語を。どんな報告書も理論もか



なわな。

「初めて気がついたのは一三歳の時だった。ぼくは、男の子が好きなんだということに。」主人公がゲイであることによつて、「青春」小説は極端に悲惨な様相を呈する。友人の裏切り、ゲイであることをきつかけにした凄惨ないじめ、父親のDV。

「リスカ」

「リスカ」(リストカット)。ただし、手首ではなくて、衣服に隠れる部分を傷つける緩慢な自殺・自傷)が現実からの唯一の逃避だ。血の吹き出すような痛みを感じながら読んだ。

最後にオスカルは、「そのままの自分を愛せる」ようになり、自尊心を取り戻す。「ぼくを燃やす炎」にもう皮膚を焼かれることはない」のだが、救いというにはあまりにも苦い。

あらすじをこれ以上書いてしまうのは興ざめだ。実際に手にとっていたきた

い。

ただし、書店では見つけにくかった。日本で最大級といわれる書店でも、検索でさえ見つからなかった。聞けば、この出版社とは取引がない、という答えだった。どうぞ注文でお買い求めください。

「クラウドファンディング」

本書への社会的関心は、成り立ちにも現れている。四月号『清流に殉じた漁協組合長』と同じく、クラウドファンディングによつて翻訳出版が可能となった。

著者はブロガーで小説は初めて。自身ゲイであることをカミングアウトして、若者の相談にのつていた。そこで集められた事実を解体し、オスカルの姿に再構成した。本書自体が、小説でありながらチャット、ブログ、ツイッター(フェイスブックはやっていないという想定)の形式で展開する。正直、若者言葉について行けないことがしばしばあった。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員

グラビア	地域を支える人 三澤和也さん・静岡県沼津市	1
発掘!地域の希望のタネ	岐阜県中津川市〈中津川 THE SOLAR BUDOKAN〉	5
給食のじかん	〈ハヤシライス〉広島県廿日市市 田村悦代	6
書評	マイク・ライトウッド著 『ぼくを燃やす炎』	菅原敏夫 8
焦点	東京都迷惑防止条例改正の問題点	藤原家康 10

特集 “虹色社会”をめざして —LGBT / SOGI 入門

解説	性的指向、性自認 ～性の多様性とLGBT/SOGIのキホン	原 ミナ汰	16
	LGBTと職場環境	村木真紀	26
	性的指向・性自認(SOGI)に関する課題と政策的動向—「カミングアウト」をめぐる課題に着目して	神谷悠一	35
	パートナーシップ制度の現状、そしてその先にあるもの	鈴木 賢	43
	LGBT先進自治体は今—大阪市淀川区	瀧谷祐介	53
	市民と自治体による協働—愛知県豊明市との連携を通して	久保 勝	59

各県自治研活動レポート	自治研集会を通じて災害教訓の継承を—自治労和歌山県本部	和田考史	66
連載	まちゆうき! 土佐自治研⑥ 人が元気、自然が元気、地域が元気 黒潮町	山崎裕也	68
連載	『月刊自治研』を読む〈第三季〉⑥ 特集「自治体労働者の仕事観」の背景	篠田 徹	70
	次号予告・編集部から		76